

電気ショッカーボートによる南湖の各水域におけるオオクチバスの捕獲状況

臼杵崇広・太田豊三・上垣雅史（滋賀県水産試験場）
吉岡剛・磯田能年・佐野聡哉（滋賀県農政水産部水産課）

[背景・ねらい]

県では平成 23 年度から魚食性の強いオオクチバスに特化し、稚魚発生を抑制することにより、在来魚稚魚の食害を未然に防ぐことを目的として、オオクチバス稚魚発生抑制事業に取り組んでいる。平成 24 年 6 月には電気ショッカーボート「雷神」が新たに導入され、琵琶湖南湖において大型のオオクチバスを主な対象として事業規模での駆除が実施されている。

電気ショッカーボートによる駆除事業の実施により、琵琶湖南湖の各水域におけるオオクチバスの生息状況が今後どのように変化していくか把握するため、南湖 7 区間においてオオクチバスの捕獲状況を調査した。

[成果の内容・特徴]

駆除事業は、原則として電気ショッカーボートに 5 名、補助船に 2 名がそれぞれ乗り込み、琵琶湖南湖沿岸を微速で航行し、感電麻痺した外来魚のみをタモ網ですくい上げるにより行われている。調査ではこの駆除事業で捕獲されたオオクチバスを標本とした。調査区間として南湖西部水域 6 区間、南湖東部水域 1 区間を設定した（図 1）。調査は平成 24 年 6 月 1 日から同月 26 日までの 6 日間行った。区間ごとにオオクチバスの体長組成（E を除く）および通電時間あたりの捕獲量を、一部で GSI（生殖腺重量/体重×100）および胃内容物を調査した。

その結果、西部水域の区間 A から C では大型個体の割合が高く、それより北の区間 D、F および東部水域では小型個体の割合が高かった（図 1）。通電時間あたりのオオクチバス捕獲量は区間 A で 131.2kg/時間と最も多く、区間 F では 62.4kg/時間、東部水域では 58.9kg/時間と少なかった。

各区間における体長 25cm 以上のメスの GSI 平均値は 1.2 から 2.9 であった。南湖ではこの時期には産卵は終盤に向かっており、より効果的な駆除事業の実施には 4 月からの電気ショッカーボートの運用が望まれる。

[成果の活用面・留意点]

効率的にオオクチバス稚魚の発生を抑制するためには、産卵前のバス親魚を捕獲することが重要である。来年度は 4 月から電気ショッカーボートによる駆除事業を実施する予定であり、効果把握のため今後経年的に南湖における捕獲状況を調査していく必要がある。

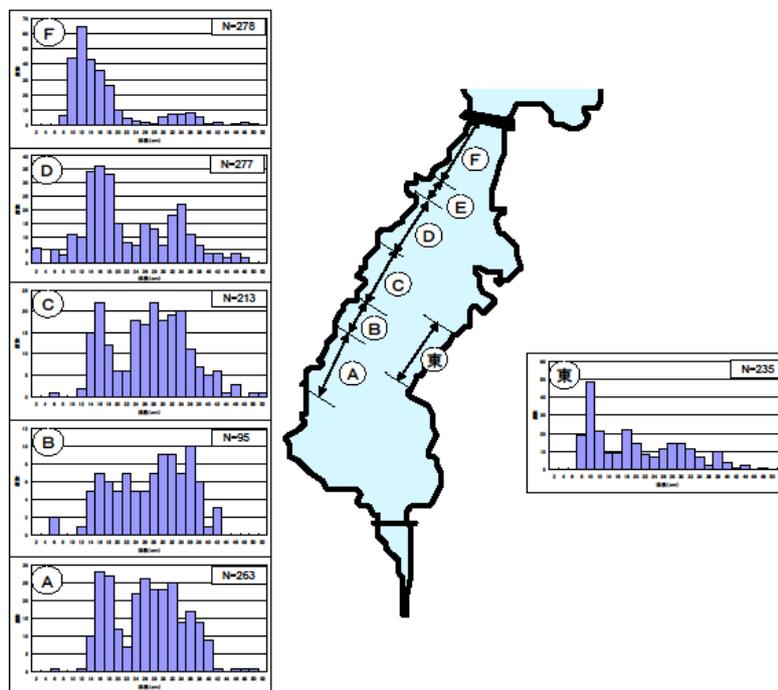


図 1 琵琶湖南湖の調査区間および各区間で捕獲されたオオクチバスの体長組成